

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラム		
必修選択	必修	(学則表記)	未来デザインプログラム		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	柔整科	2	32
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できるようになる 				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	茶谷 裕太 三井 華那子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どのような状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊 ～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ

6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すこと大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	諦めない気持ち	夢を追い続ける大切さ、諦めない気持ちを学ぶ
17	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
18	Win-Win を考える	お互いがハッピーになれる方法を考えること大切さを学ぶ
19	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
20	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということ学ぶ
21	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
22	自分を磨く	自分を磨くこと大切さ、学び続けること大切さを考える
23	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
24	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える

25	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
26	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
27	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
28	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
29	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
30	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
31	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
32	夢	夢の大切さを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーナー理論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー理論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	柔整科		64
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	トレーニング指導を行う上で必要な機能解剖学、運動生理学、スポーツ栄養、バイオメカニクス、救急処置法、整形外科、生活習慣病の基礎知識を学ぶ。				
到達目標	トレーニング指導を行う上で必要な機能解剖学、運動生理学、スポーツ栄養、バイオメカニクス、救急処置法、整形外科、生活習慣病の基礎知識を説明できる。				
評価基準	筆記試験、受講姿勢により評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 (J A T I - A T I)				
関連科目	トレーナー実践 I、トレーナー実技 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平間 康允	実務経験	○		
実務内容	修士（教育学）。高等学校教員免許（公民）。教育大学での講師、北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を始め、ジュニア世代へのメンタルサポート、また、研究者として各種学会での発表をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1 章 体力学総論	体力の概念、体力の要素と体力モデル
2	1 章 体力学総論	体力の個人特性、一般的体力と専門的体力、体力トレーニング
3	2 章 機能解剖 1 節 上肢	上肢の骨、関節、筋肉、神経と血管
4	2 章 機能解剖 2 節 上肢	上肢の骨、関節、筋肉、神経と血管
5	2 章 機能解剖 2 節 脊柱と胸郭	脊柱の基本構造、骨、関節、筋肉

6	2章 機能解剖 2節 脊柱と胸郭	脊柱の基本構造、骨、関節、筋肉
7	2章 機能解剖 3節 下肢	関節の運動を表す用語、下肢の骨、関節、筋肉、神経と動脈
8	2章 機能解剖 3節 下肢	関節の運動を表す用語、下肢の骨、関節、筋肉、神経と動脈
9	1章～2章のまとめ	理解度確認小テスト
10	3章 バイオメカニクス 1節 バイオメカニクスの基礎理論	運動の記述、分析
11	同上	スポーツ動作（歩動作、走動作、跳動作、投動作）
12	同上	スポーツ動作（打動作、蹴動作、滑走動作、泳動作）
13	同上	トレーニング動作（ローイング動作、ペダリング動作、上肢の動作、下肢の動作）
14	1章～3章のまとめ、復習	試験前対策
15	総括	試験後解説
16	4章 運動生理学 1節 呼吸循環系・エネルギー代謝と運動	呼吸循環系の基礎的情報、運動と呼吸循環系
17	同上	トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報、運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝
18	同上	トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報、運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝
19	4章 運動生理学 2節 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動	骨格筋の形態と機能、筋力発揮のメカニズム
20	同上	筋・神経系に対するトレーニング効果、主な内分泌系とホルモン、身体機能へのホルモンの作用、筋肥大におけるホルモンの役割、レジスタンストレーニングとホルモン分泌
21	4章のまとめ、復習	理解度確認小テスト
22	5章 運動と栄養 1節 運動と栄養に関する基礎理論	五大栄養素の役割
23	同上	身体組成とエネルギー代謝、スポーツ栄養マネジメント

24	5 章 運動と栄養 2 節 スポーツ選手の競技力向上と栄養	種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事
25	同上	水分補給、栄養・食事計画の立案、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践
26	7 章 運動と医学 1 節 救急処置法	外傷の応急処置（皮膚などに傷の無いケガの処置）
27	同上	創傷の応急処置（皮膚などに傷のあるケガの処置）、緊急時の一次救命処置（B L S）
28	7 章 運動と医学 2 節 スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害、下腿部の傷害、膝関節の傷害
29	同上	大腿部の傷害、腰部の傷害、肩関節の傷害、肘関節の傷害、手関節の傷害
30	7 章 運動と医学 3 節 生活習慣病とその予防	生活習慣病予防と身体活動・運動、肥満
31	同上	糖尿病、脂質異常症、高血圧症
32	総括	試験後解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実践 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実践 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	柔整科	2	64
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	筋力トレーニング、パワー、持久力、スピード、柔軟性向上トレーニングに関する知識の習得および、原理原則に則したトレーニングプログラムの作成ができるようになること。				
到達目標	筋力トレーニング、パワー、持久力、スピード、柔軟性向上トレーニングに関する知識の習得および、原理原則に則したトレーニングプログラムの作成ができる。				
評価基準	筆記試験、受講姿勢により評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 (J A T I - A T I)				
関連科目	トレーナー理論 I、トレーナー実技 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部 修久	実務経験	○		
実務内容	ABC Support 代表。北見市スポーツ推進委員。スポーツトレーナーとして、高校野球部のトレーニング指導を始め、パーソナルトレーナーとしても活躍している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	日本トレーニング指導者協会 (J A T I) について	資格の種類、資格の対象、取得方法、上位資格の取得方法
2	1 章 トレーニング指導者論 1 節 トレーニング指導者の役割	トレーニング指導者とは、国内のトレーニング指導者に対するニーズ、トレーニング指導者の役割と業務
3	同上	競技スポーツ分野における状況に応じた活動、トレーニング指導者の資質、身につけるべき能力、行動と倫理
4	2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 1 節 トレーニング計画の立案 (総論)	トレーニングとは、トレーニングの原理と原則

5	同上	トレーニング計画の立案
6	同上	ピリオダイゼーション
7	同上	筋力トレーニングの効果、筋力トレーニングのプログラムの条件設定①
8	同上	筋力トレーニングのプログラムの条件設定②
9	同上	筋力トレーニングのプログラムの条件設定③
10	同上	筋力トレーニングのプログラムの条件設定④
11	同上	筋力トレーニングのプログラムの条件設定⑤
12	1章～2章1節のまとめ	理解度確認小テスト
13	筋力トレーニングのプログラム作成演習	対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成①
14	同上	対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成②
15	1章～2章1節のまとめ、復習	試験前対策
16	1章～2章1節のまとめ	試験後解説
17	2章 各種トレーニング法	パワーの基本理念、スポーツや日常生活動作におけるパワー、短時間に大きな力を発揮する能力
18	2章 各種トレーニング法の理論とプログラム 3節 パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	パワーに類似する用語、パワー発揮様式の分類、パワーの測定と評価、パワー向上トレーニングのプログラム戦略
19	同上	トレーニングプログラム変数①
20	同上	トレーニングプログラム変数②
21	同上	パワー向上トレーニングの長期的な計画、フィットネス分野におけるパワートレーニング
22	2章3節のまとめ	理解度確認小テスト

23	2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 4 節 持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	持久力に関する基礎理論、有酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応
24	同上	無酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応、持久力向上トレーニングのプログラム作成の基本、持久力向上トレーニングのプログラム作成の実際
25	2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 5 節 スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	スピード、アジリティ、スピードを向上させる要因、基礎筋力、最大筋力、パワーの向上、コアの重要性
26	同上	スピードにおける動作テクニックの獲得、アジリティの強化、オープンスキルアジリティの強化、スピードアジリティトレーニングのプログラムデザイン、トレーニング変数
27	2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 6 節 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム作成	柔軟性向上のトレーニング、ストレッチング
28	同上	ウォームアップとクールダウン
29	調整コマ①	授業の進度、受講者の習熟・理解度によって決定する
30	調整コマ②	授業の進度、受講者の習熟・理解度によって決定する
31	2 章 3 節～6 節のまとめ①	試験前対策
32	総括	試験後解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実技 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実技 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	柔整科	2	64
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】 改訂版認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎的なレジスタンストレーニングの適切なデモンストレーション技能を習得する。 基礎的なテーピングテクニックを習得する。				
到達目標	基礎的なレジスタンストレーニングの適切なデモンストレーション技能を実践できる。 基礎的なテーピングテクニックを実践できる。				
評価基準	授業態度、テストにより評価する				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 (J A T I - A T I)				
関連科目	トレーナー理論 I、トレーナー実践 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平間 康允	実務経験	○		
実務内容	修士 (教育学)。高等学校教員免許 (公民)。教育大学での講師、北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を始め、ジュニア世代へのメンタルサポート、また、研究者として各種学会での発表をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングの基礎知識と自重トレーニング	動作スピード、呼吸法、バーの握り方、自重トレーニング
2	マシントレーニング実践①	上肢のトレーニングマシンの使い方、実践
3	同上	同上
4	マシントレーニング実践②	下肢のトレーニングマシンの使い方、実践
5	同上	同上

6	B i g 3 のテクニック習得と実践 ①ベンチプレス	動作スピード、呼吸法、バーの握り方、ベンチプレス、補助法
7	同上	同上
8	B i g 3 のテクニック習得と実践 ② バックスクワット	ベルトの使用、バックスクワット、補助法
9	同上	同上
10	B i g 3 のテクニック習得と実践 ③デッドリフト	ストラップの使用、デッドリフト
11	同上	同上
12	実技試験①	実技試験①
13	胸部のトレーニング	インクラインベンチプレス、ダンベルベンチプレス、ディッピング
14	背部のトレーニング	ベントオーバーロウ、ワンハンドダンベルロウ、チンニング、シーティッドロウ、ダンベルプルオーバー
15	肩部のトレーニング	バーベルショルダープレス、アップライトロウ、ショルダーシュラッグ
16	同上	サイドレイズ、フロントレイズ、ローテーターカフトレーニング
17	腕部のトレーニング①	バーベルカール、コンセントレーションカール、プリチャーカール
18	腕部のトレーニング②	ライニングトライセプスエクステンション、トライセプスプレスダウン、ワンハンドフレンチプレス、トライセプスキックバック
19	大腿部、殿部のトレーニング	ワイドスタンススクワット、スプリットスクワット
20	同上	グッドモーニングエクササイズ、スティフレッグドデッドリフト、ワイドスタンスデッドリフト
21	同上	フォワードランジ、バックワードランジ、サイドランジ
22	実技試験②	実技試験
23	テーピング①(オリエンテーション)	ガイダンス、用具の説明、テープカット練習

24	テーピング②(基礎実技)	テープカット練習、足置き台作成
25	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※1)	アンダーラップ
26	同上	アンカーテープ、スターアップ、ホースシュー
27	同上	サーキュラー
28	同上	ヒールロック、フィギュア 8
29	同上	タイムテスト※1 補足(バスケットウィーブ)⇒柔整科は国試対策のため必須
30	テーピング④(膝関節テーピング： ACL・MCL※2)	アンダーラップ、アンカーテープ、X テープ、スパイラルテープ、スプリットテープ
31	同上	タイムテスト※2 補足(膝関節内側 X テープ)⇒柔整科は国試対策のため必須
32	総括	授業まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学 I		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		10 160
使用教材	解剖学		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	初めての医学を学ぶ学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。				
到達目標	人体の正常な構想と機能を説明できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 祐二／青木 紗矢香	実務経験	○		
実務内容	佐々木 祐二：北海道医療大学 リハビリテーション科学部 理学療法学科 講師。理学療法士として、様々な研究に従事。 ／青木 紗矢香：歯科医師として歯科医院にて診療を務める傍ら、学校教育に携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	概説	解剖学の意義、解剖学の分類、細胞及び組織
2	概説	組織、発生
3	概説、運動系（骨格系）	器官系統、人体の区分、総論、骨の形状による分類、骨の構造、骨の発生と成長
4	運動系（骨格系）	骨の表面の形状についての用語、骨の連結、脊柱、胸郭
5	運動系（骨格系）	上肢帯、自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨）、自由上肢骨（手根骨、中手骨、指骨）、上肢の関節

6	運動系 (骨格系)	自由上肢骨 (手根骨、中手骨、指骨)、上肢の関節、下肢帯、自由下肢骨 (大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨)
7	運動系 (骨格系)、運動系 (筋系)	自由下肢骨 (足根骨、中足骨、指骨) 頭蓋 (脳頭蓋)、頭蓋 (顔面頭蓋)、骨格筋、頭部の筋
8	運動系 (筋系)	頸部の筋、胸部の筋、腹部の筋
9	運動系 (筋系)	背部の筋、上肢帯の筋、上腕の筋
10	運動系 (筋系)	前腕の筋、手の筋、下肢帯の筋
11	運動系 (筋系)、脈管系	大腿の筋、下腿の筋、足の筋。総論
12	脈管系	総論、心臓、大動脈、頭部、頸部の動脈、上肢の動脈、胸大動脈
13	脈管系	腹大動脈、骨盤部の動脈、下肢の動脈、上大静脈
14	脈管系	下大静脈、門脈、骨盤部の静脈、下肢の静脈、胎児循環
15	脈管系、内臓系	リンパ管系、消化器
16	内臓系、試験後授業	消化器、試験後の振り返り
17	内臓系	呼吸器
18	内臓系	泌尿器
19	内臓系	生殖器
20	内臓系、内分泌系	生殖器、下垂体、松果体
21	内分泌系	甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、精巣、卵巢、胸腺
22	神経系	神経系の基礎、脳
23	神経系	脳、脊髄
24	神経系	脊髄

25	神経系	脊髄
26	神経系	脊髄、末梢神経
27	神経系	末梢神経
28	神経系、感覚器	末梢神経、外皮
29	感覚器	外皮、視覚器
30	感覚器	聴覚器および平衡器、味覚器、嗅覚器
31	感覚器、体表解剖	味覚器、嗅覚器、骨格系、筋系、脈管系
32	体表解剖、試験後授業	神経系、感覚器、生体計測、試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学 II		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学 II		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	柔整科		32
使用教材	解剖学		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師として骨筋についての知識は特に必要なため、前期で学んだ内容を復習する。				
到達目標	骨筋についての名称、作用などを説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	江夏 岳晋	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師、はり師、きゅう師として勤務した後、独立開業。鍼灸整骨院の院長を務める傍ら、柔道整復師専科教員資格を取得し学校教育にも携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	骨格系	上肢の骨、関節
2	骨格系	上肢の骨、関節
3	骨格系	上肢の骨、関節、下肢の骨、関節
4	骨格系	下肢の骨、関節
5	骨格系	下肢の骨、関節
6	骨格系	頭部、体幹の骨、関節

7	骨格系	頭部、体幹の骨、関節
8	骨格系、筋系	頭部、体幹の骨、関節、上肢の筋
9	筋系	上肢の筋
10	筋系	上肢の筋
11	筋系	下肢の筋
12	筋系	下肢の筋
13	筋系	下肢の筋、頭部、体幹の筋
14	筋系	頭部、体幹の筋
15	筋系	頭部、体幹の筋
16	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生理学		
必修選択	必修	(学則表記)	生理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		8
使用教材	生理学		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	初めて医学を学ぶ学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するにあたって必要不可欠なものである。この授業の目的は、生理学を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。				
到達目標	人体の正常な構造と機能を説明できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	長谷川 智香／本郷 裕美	実務経験	○		
実務内容	長谷川 智香：歯科医師。北海道大学大学院歯学研究科 口腔健康科学講座 硬組織発生生物学教室 准教授。主に骨代謝における細胞組織学的研究に従事。／本郷 裕美：歯科医師。同教室 助教。主に骨代謝における細胞組織学的研究に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学の基礎	生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス、からだの化学的構成、細胞の機能的構造、拡散、浸透、ろ過
2	生理学の基礎	拡散、浸透、ろ過
3	生理学の基礎、血液の生理学	受動輸送と能動輸送、エンドサイトーシスとエクソサイトーシス、血液の役割、血液の組成
4	血液の生理学	血液の役割、血液の組成、免疫機能、血液型、血液凝固
5	循環の生理学	心臓の機能

6	循環の生理学	血管系、リンパ管系、循環の調節、局所循環、脳脊髄液循環
7	呼吸の生理学	呼吸器の機能的構造、換気、ガス交換、血液中の酸素の運搬
8	呼吸の生理学、消化と吸収	血液中の酸素の運搬二酸化炭素の運搬、呼吸を調節するしくみ、呼吸の異常、特殊環境下の呼吸、人口呼吸、消化器系のはたらき、消化管の運動とその調節
9	消化と吸収	消化液の分泌機序、消化、吸収
10	消化と吸収、栄養と代謝	消化管ホルモン、肝臓と胆道系、代謝
11	栄養と代謝、体温とその調節	中間代謝、エネルギー代謝、体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生
12	体温とその調節、尿の生成と排泄	熱放散、体温の調節、うつ熱と発熱、気候馴化、腎の構造と機能
13	尿の生成と排泄	糸球体ろ過、尿細管における再吸収、尿細管における分泌、尿の成分、排尿
14	内分泌系の機能	内分泌腺、ホルモンの一般的性質、ホルモンの種類と作用、視床下部のホルモン、下垂体のホルモン、甲状腺のホルモン、副腎皮質のホルモン
15	内分泌系の機能、生殖	副腎髄質のホルモン、膵臓のホルモン、精巣のホルモン、卵巣のホルモン、性染色体とその異常、性分化、男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精
16	生殖、試験後授業	男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精、試験後の振り返り
17	生殖	女性生殖器の構成、精子形成、勃起と射精
18	生殖、骨の生理学	女性生殖器の構成、精子形成、勃起と射精、骨の構造、骨の形成と成長、骨の再吸収と再形成、カルシウム代謝とリン代謝
19	骨の生理学、体液の生理学	ビタミンD、上皮小体ホルモン、カルシトニン、骨の病気、体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液の恒常性を維持する仕組み
20	体液の生理学、神経の基本的機能	体液の恒常性を維持する仕組み、神経細胞の形態、静止膜電位
21	神経の基本的機能	活動電位、閾刺激、前か無かの法則、不応期、イオンチャンネル、興奮の伝導
22	神経の基本的機能、神経系の機能	複合活動電位、興奮の伝達、神経系の成り立ち、内臓機能の調節、内臓機能の視床下部による調節、姿勢と運動の調節、高次機能
23	神経系の機能、筋肉の生理学	姿勢と運動の調節、高次機能、筋肉の種類とその特徴、骨格筋の構造、筋収縮の仕組み、筋細胞膜を興奮させる仕組み
24	筋肉の生理学	筋細胞膜を興奮させる仕組み、骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さとの関係、筋収縮のエネルギー

25	筋肉の生理学、感覚の生理学	筋肉の熱発生、筋電図、平滑筋、心筋、感覚の種類、感覚の一般的性質、体性感覚、内臓感覚、嗅覚と味覚
26	感覚の生理学	聴覚、視覚
27	感覚の生理学、高齢者の生理学的特徴変化	前庭感覚、高齢者の生理学的特徴
28	高齢者の生理学的特徴変化	高齢者の生理的特徴、高齢者の生理的变化
29	高齢者の生理学的特徴変化	高齢者の生理的变化
30	競技者の生理学的特徴変化	競技者の生理学的特徴
31	競技者の生理学的特徴変化	競技者の生理学的特徴、競技者の生理学的変化
32	競技者の生理学的特徴変化、試験後授業	競技者の生理学的変化、試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道 I		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		2 64
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は現代柔道の元となった柔術(古武術)の技(活殺法)に由来しており、そのルーツを同じくする柔道に技術及び精神面において多くの共通点や影響がみられる。柔道整復師として柔道を正しく理解し、その源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成することを目的とする。				
到達目標	柔道整復師として柔道を正しく理解し、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海野 幸司	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会、北海道鍼灸師会所属。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
2	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
3	対人的技能(投げ技)	出足払、膝車、支釣込足
4	対人的技能(投げ技)	出足払、膝車、支釣込足
5	対人的技能(投げ技)	浮き落とし

6	对人的技能 (投げ技)	浮き落とし
7	对人的技能 (投げ技)	背負投
8	对人的技能 (投げ技)	背負投
9	对人的技能 (投げ技)	肩車
10	对人的技能 (投げ技)	肩車
11	对人的技能 (投げ技)	浮腰
12	对人的技能 (投げ技)	浮腰
13	对人的技能 (投げ技)	払腰
14	对人的技能 (投げ技)	払腰
15	对人的技能 (投げ技)	釣込腰
16	試験後授業	試験後の振り返り
17	对人的技能 (投げ技)	釣込腰
18	对人的技能 (投げ技)	送足払
19	对人的技能 (投げ技)	送足払
20	对人的技能 (投げ技)	支釣込腰
21	对人的技能 (投げ技)	支釣込腰
22	对人的技能 (投げ技)	内股
23	对人的技能 (投げ技)	内股
24	对人的技能 (投げ技)	投の形、打ち込み、投げ込み

25	対人的技能（投げ技）	投の形、打ち込み、投げ込み
26	対人的技能（投げ技）	投の形、打ち込み、投げ込み
27	対人的技能（投げ技）、応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
28	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
29	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
30	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
31	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
32	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	衛生学・公衆衛生学		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生学・公衆衛生学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		32
使用教材	衛生学・公衆衛生学		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	開業医と同様に柔道整復師も地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されており、この分野の十分な知識の習得と理解が不可欠となっている。ここでは、卒後の地域の公衆衛生活動に寄与することを念頭に置きつつ、基礎的知識の確実な習得及び理解を目的とする。				
到達目標	公衆衛生活動の基礎的知識の確実な習得及び理解し、説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	田中 真樹	実務経験	○		
実務内容	北海道医療大学 臨床検査学科 教授。デキストラン硫酸ナトリウム誘発腸炎マウスにおけるエゾウコギの効果に対する基礎的検討に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	衛生学公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	衛生学公衆衛生学の歴史、公衆衛生活動
2	健康の概念	健康の語源と理解、健康を維持する上での生活の役割、慢性疾患と生活、健康の測定
3	疫学	疫学とは、病因論：疾病の成り立ち、疾病モデル、疫学調査の手順と留意事項、疫学で用いる主な統計手法
4	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防、病因と危険因子、疾病予防の段階、加齢と疾病、健康管理のスペクトラム活動の構成、集団検診、健康管理の技法、健康管理の今後
5	感染症の予防	感染症とは、感染症の予防対策

6	消毒	消毒とは、消毒の種類と方法、消毒法の応用
7	環境保健	環境とは、人(主体)-環境系、生体における量-反応関係、環境問題、環境の把握、環境の評価、物理的環境要因、科学的環境要因、生物学的環境要因：微生物を中心に、公害、空気の衛生と待機汚染、環境の測定と評価、環境基準とその設定、環境対策、地球環境の管理
8	母子保健	ライフサイクルと母子保健、母と子のかかわり、母子保健の指標、母子保健行政、母子保健対策、家庭保健、我が国の母子保健事業の成果と今後の動向
9	学校保健	学校保健の意味、学校保健の領域と構成、保健教育と保健管理の特質、学校保健の組織と運営、学校保健管理、学校環境管理、保健教育、健康状況の統計、健康異常の新しい傾向
10	産業保健	産業保健の目的、働く人々の健康問題史、最近の職場の特徴、労働災害の動向、職業病とその対策、職場における健康診断と健康増進、勤労者の生活と余暇、リハビリテーションと職場復帰
11	成人老人保健	成人老人の健康状態、成人老人の有責者率、受療率、成人病の予防、老人の生活と老人保健福祉対策
12	精神保健	精神保健の定義と歴史、精神の病気、精神保健活動とその原則
13	生活環境食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁、衣服、住居、食品、食品衛生活動、栄養改善活動、廃棄物処理、消費者保健活動
14	地域保健と国際保健	地域保健とは、地域社会とその変容、地域、地域特性とその指標、地域保健活動の特徴、地域保健活動の進め方、地域保健活動の現状、保健に関する国際協力と世界保健機関
15	衛生行政と保健医療の制度	衛生行政の考え方、我が国の衛生行政機構(組織)の概要、関連機関の役割、保健医療行政の財政、医療施設、保健医療従事者、医療保険、公費負担医療、国民医療費、健康づくり、保健医療福祉関係の法規、医療と公衆衛生活動の問題と倫理
16	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	職業倫理		
必修選択	必修	(学則表記)	職業倫理		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	柔整科		16
使用教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療人としての在り方、考え方を学ぶ				
到達目標	医療人としての在り方、考え方を理解し説明できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大山 ちあき	実務経験	○		
実務内容	鍼灸師、柔道整復師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道初段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	社会人としての倫理	単元の内容を学ぶ
2	社会人としての倫理	単元の内容を学ぶ
3	社会人としての倫理	単元の内容を学ぶ
4	社会人としての倫理	単元の内容を学ぶ
5	医療人としての倫理	単元の内容を学ぶ
6	医療人としての倫理	単元の内容を学ぶ

7	医療人としての倫理	単元の内容を学ぶ
8	医療人としての倫理	単元の内容を学ぶ
9	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
10	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
11	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
12	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
13	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
14	柔道整復師としての倫理	単元の内容を学ぶ
15	試験前授業	試験前対策
16	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	柔道整復理論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復理論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	柔整科	7	112
使用教材	柔道整復学理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。				
到達目標	業務範囲を理解し、外傷の受傷から治癒までの施術の流れを説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大山 ちあき / 小向 啓介	実務経験	○		
実務内容	大山 ちあき：鍼灸師、柔道整復師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道初段。 小向 啓介：柔道整復師の免許を取得し、整形外科にて勤務後、自身で整骨院を開業。その後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道二段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	概説、骨の損傷	柔道整復術および柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領、骨の形態と機能
2	骨の損傷	骨損傷の概説、骨損傷の分類
3	骨の損傷	骨損傷の分類、骨折の症状
4	骨の損傷	骨折の症状

5	骨の損傷	骨折の症状、骨折の合併症
6	骨の損傷	骨折の合併症
7	骨の損傷	小児骨折高齢者骨折の特徴
8	骨の損傷	小児骨折高齢者骨折の特徴、骨折の癒合日数、骨折の治癒経過、骨折の予後
9	関節の損傷	関節の構造と機能、関節損傷の概説、関節損傷の分類、損傷される組織、鑑別診断を要する類症、関節構成組織損傷、脱臼(腱脱臼を除く)
10	筋の損傷	筋の形態と機能、筋損傷の概説、筋損傷の分類
11	筋の損傷、腱の損傷	筋損傷の症状、筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後、腱の構造と機能、腱損傷の概説、腱損傷の分類
12	腱の損傷、末梢神経の損傷	腱損傷の概説、腱損傷の分類、腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序、神経の構造と機能、神経損傷の概説、神経損傷の分類、神経損傷の症状、神経損傷の治癒機序
13	診察、整復法	診察時の注意点、診察手順の概説、診察の時期による分類、治療計画の作成、施術録の扱いと記載、骨折の整復法
14	整復法、固定法	脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置、固定の目的、固定の種類、固定の肢位、固定の期間、固定の範囲、固定の材料
15	後療法	手技療法、運動療法、物理療法
16	後療法、試験後授業	物理療法、試験後の振り返り
17	指導管理	患者とその環境の把握、患者の環境に対する指導管理、整復に関する指導管理
18	指導管理	整復に関する指導管理、固定に関する指導管理
19	指導管理、外傷予防	後療法に関する指導管理、自己管理に対する指導、第一段階、第二段階、第三段階
20	外傷予防、復習	第一段階、第二段階、第三段階、総合演習を行う。
21	復習	総合演習を行う。
22	復習	総合演習を行う。
23	復習	総合演習を行う。

24	復習	総合演習を行う。
25	復習	総合演習を行う。
26	復習	総合演習を行う。
27	復習	総合演習を行う。
28	復習	総合演習を行う。
29	復習	総合演習を行う。
30	復習	総合演習を行う。
31	復習	総合演習を行う。
32	復習、試験後授業	総合演習を行う。試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道整復実技 I		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復実技 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	柔整科	2	64
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術では、古くから運動器疾患に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴ってその施術対象も増加し、習得すべき技術も多くを求められるようになった。運動器疾患の正確な診断を行うための基礎となるのは視診、問診に始まり触診法、理学的徒手検査法にある。本授業では初期研修として徒手検査法習得に加えて、柔道整復術における徒手治療法の根幹をなす手技療法、さらに運動療法(スリングセラピー)の基礎的理解と基礎技術習得を目的とする。				
到達目標	運動器疾患の正確な診断を行うための基礎となる触診法、理学的徒手検査法を実施できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	旭岡 健斗	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師。札幌スポーツ&メディカル専門学校併設院 みらい整骨院 院長。北海道柔道整復師会所属。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	身体計測法	四肢長、四肢周計の計測評価について理解及び技術習得を目的とする。
2	身体計測法	四肢長、四肢周計の計測評価について理解及び技術習得を目的とする。
3	関節可動域測定法	上肢の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。
4	関節可動域測定法	上肢の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。

5	関節可動域測定法	下肢の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。
6	関節可動域測定法	下肢の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。
7	関節可動域測定法	体幹の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。
8	関節可動域測定法	体幹の関節可動域測定法について理解及び技術習得を目的とする。
9	関節可動域測定法	関節可動域測定法について必要な理解及び技術習得がなされているか確認、復習を行う。
10	関節可動域測定法	関節可動域測定法について必要な理解及び技術習得がなされているか確認、復習を行う。
11	触診	上肢の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
12	触診	上肢の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
13	触診	下肢の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
14	触診	下肢の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
15	触診	体幹の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
16	試験後授業	試験後の振り返り
17	触診	体幹の骨性ランドマーク、筋の触診、検査法
18	触診	上下肢、体幹の触診復習
19	触診	上下肢、体幹の触診復習
20	触診	上下肢、体幹の触診復習
21	手技療法	軽擦法について技術習得を目的とする。
22	手技療法	軽擦法について技術習得を目的とする。圧迫法について技術習得を目的とする。
23	手技療法	圧迫法について技術習得を目的とする。

24	手技療法	揉捏法について技術習得を目的とする。
25	手技療法	揉捏法について技術習得を目的とする。 強擦法について技術習得を目的とする。
26	手技療法	強擦法について技術習得を目的とする。
27	手技療法	叩打法について技術習得を目的とする。
28	手技療法、運動療法	叩打法について技術習得を目的とする。懸垂訓練装置(スリングセラピー)を用いた運動療法についてその理論及び基礎技術の習得を目的とする。
29	運動療法	懸垂訓練装置(スリングセラピー)を用いた運動療法についてその理論及び基礎技術の習得を目的とする。
30	運動療法	懸垂訓練装置(スリングセラピー)を用いた運動療法についてその理論及び基礎技術の習得を目的とする。
31	運動療法	懸垂訓練装置(スリングセラピー)を用いた運動療法についてその理論及び基礎技術の習得を目的とする。
32	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	包帯固定学		
必修選択	必修	(学則表記)	包帯固定学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		2 64
使用教材	包帯固定学		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師の包帯法は、歴史的に長い年月をかけて先人達が築きあげてきた独特の技術であり、主に臨床現場で師から弟子へと伝えられて来たものである。2003年に標準となる教科書が編纂されたが、教育現場でも一定水準の技術とその理論を伝えるため、臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は副子、ギプスなども多く取り入れより臨床に即した内容とする。				
到達目標	固定の目的、範囲について説明できる 基本的な包帯法、代表的な冠名包帯法を実施できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 雄大	実務経験	○		
実務内容	専門学校卒業後、柔道整復師として整骨院で働きながら鍼灸師の免許を取得。その後整形外科で勤め、柔道整復師専科教員の資格を取得し、学校教育に携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	固定、固定材料の種類	固定の目的、固定の範囲、について理解する。固定の肢位及び固定材料の種類について理解する。
2	包帯の巻き方の基礎と注意事項	包帯の持ち方、順巻き、逆巻き、表巻き、裏巻きについて理解する。巻き始めと巻き終わり、巻き絞めの強さ、均等な圧、包帯を巻く速さ、美しさ等について理解する。
3	基本包帯法	包帯の巻き戻し、環行帯について技術習得を目的とする。螺旋帯、蛇行帯について技術習得を目的とする。
4	基本包帯法	折転帯について技術習得を目的とする。亀甲帯について技術習得を目的とする。
5	基本包帯法	麦穂帯について技術習得を目的とする。三節帯(三角巻き)について技術習得を目的とする。

6	冠名包帯法	ヴェルポー帯について技術習得を目的とする。
7	冠名包帯法	ジュール帯について技術習得を目的とする。
8	冠名包帯法	デゾー帯について技術習得を目的とする。
9	冠名包帯法	デゾー帯について技術習得を目的とする。
10	冠名包帯法	冠名包帯法総合復習
11	部位別包帯法	頭部、顔面の包帯法について技術習得を目的とする。上肢の包帯法について技術習得を目的とする。
12	部位別包帯法	上肢の包帯法について技術習得を目的とする。
13	部位別包帯法	体幹の包帯法について技術習得を目的とする。
14	部位別包帯法	下肢の包帯法について技術習得を目的とする。
15	部位別包帯法	下肢の包帯法について技術習得を目的とする。
16	試験後授業	試験後の振り返り
17	その他の包帯法	その他の応用包帯について技術習得を目的とする。
18	その他の包帯法、三角巾による堤肘	その他の応用包帯について技術習得を目的とする。三角巾による堤肘について技術習得を目的とする。
19	さらし(晒)による固定、厚紙副子似による固定	さらし(晒)による固定について技術習得を目的とする。厚紙副子(手関節)固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
20	厚紙副子似による固定	厚紙副子(手関節)固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
21	厚紙副子似による固定、クラーメル(金属副子)による固定	厚紙副子(手関節)固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。クラーメル(肘関節)固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
22	クラーメル(金属副子)による固定	クラーメル(肘関節)固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
23	プライトン(熱可塑性材料)副子による固定	プライトン(母指)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。

24	プライトン(熱可塑性材料)副子による固定、アルミ副子による固定	プライトン(母指) について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。 アルミ副子(環指、小指)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
25	アルミ副子による固定	アルミ副子(環指、小指)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
26	ポリキャスト(熱可塑性材料)副子による固定	ポリキャスト(リスフラン関節)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
27	ポリキャスト(熱可塑性材料)副子による固定	ポリキャスト(距腿関節)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
28	ポリキャスト(熱可塑性材料)副子、キャストライトギプス(ガラスファイバー素材)による固定	ポリキャスト(距腿関節)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。 キャストシーネ((距腿関節)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
29	キャストライトギプス(ガラスファイバー素材)による固定	キャストシーネ((距腿関節)について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
30	キャストライトギプス(ガラスファイバー素材)による固定	キャストライトギプス(上肢)による固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
31	キャストライトギプス(ガラスファイバー素材)による固定	キャストライトギプス(上肢)による固定について材料の特性と基本的な取扱いについて理解を深める事を目的とする。
32	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習 I		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	柔整科		45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	福祉施設や、接骨院などを見学し柔道整復師としての心構えや、実際の業務内容を学ぶ				
到達目標	身だしなみ、挨拶がしっかりできる 柔道整復師の実際の業務内容を説明できる				
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小向 啓介	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師の免許を取得し、整形外科にて勤務後、自身で接骨院を開業。その後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道二段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
2	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
3	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
4	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
5	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
6	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

7	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
8	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
9	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
10	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
11	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
12	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
13	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
14	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
15	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
16	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
17	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
18	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
19	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
20	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
21	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
22	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
23	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
24	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
25	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

26	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
27	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
28	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
29	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
30	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
31	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
32	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
33	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
34	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
35	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
36	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
37	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
38	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
39	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
40	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
41	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
42	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
43	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
44	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

45	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
----	------	----------------